

2017年度 相模女子大学・相模女子大学短期大学部 自己点検評価結果報告書

はじめに

本学における自己点検評価は、まず各学科において前年度の点検・評価を行い、それを各学部長が総括し、自己点検評価委員会で検討する体制を取っており、本報告書はそれを踏まえて、学長の責任においてまとめたものである。なお、本報告書は学内外に公表される。

1. 総論

(1) 本学の自己点検・自己評価

上記「はじめに」に記した点検・評価体制になって三年目となるが、各学科に求める点検・評価の観点については毎年改善を図っており、今回は、特に3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）に沿って、教育活動がなされたかを中心とし、点検・評価を行った。ディプロマポリシーについては学習成果（成績評価や資格取得の状況）との関連性、カリキュラムポリシーについては教育課程との整合性やそれによる学習の活性化の状況、アドミッションポリシーについては学生募集活動との連動といった視点で、それぞれの学科における具体的な活動内容が点検・評価の対象となった。

3ポリシーと教育活動との整合性については各学科・学部ともおおむね適切と判断される。今後、より具体的なポリシーへの改定とそれに即した成績評価、カリキュラム、入学者受け入れ方法の検討が課題となるが、そのための基盤は整っている。

その他、教員組織に関して科会運営の適切性やFD活動の状況、学生支援については正課外での補習等の状況やキャリア支援の取り組み、そして本学の特色となっている社会連携・社会貢献活動についても、各学科・学部での実施状況が報告されている。各学科・学部ともこの点検・評価を前向きに捉え、これを教育活動の改善につなげていこうとする積極的な姿勢が見られていること自体が、評価に値するものと考えている。各学科・学部の努力に感謝したい。

(2) Sagami Vision2020 の全体的な実施状況

学校法人相模女子大学は、創立120年となる2020年に向けて、総合的な発展計画としてSagami Vision2020を掲げ、その実現に取り組んでいる。具体的な内容は、2015年度に提示した「中長期基本計画」に示されているが、そこでは大きく6つの目標が挙げられ、それぞれについて具体的な施策や改革が進められている。以下にその進捗状況、特に2017年度の顕著な動きと今後の課題を総括する。

① 教育目標の共有と具現化

スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」を本学のプランディングの要として、「発想力」の育成に取り組んできた。「さがみ発想講座」や「発想コンテスト」など

の発想教育とさまざまな地域連携活動は本学の教育の特色として定着した感がある。さらに 2017 年度は卒業研究など学業の成果において優秀な結果を残した学生に対し、卒業式において「発想賞」を授与して広く顕彰した。学生たちがより一層「発想力」を伸ばすための動機付けとして今後に期待したい。

② 新しい教育体制の確立

学部・学科を超えた学びのあり方が課題となるなか、3 つのコースでスタートした「学科横断プログラム」(副専攻) は順調に進行している。この進捗を踏まえながら、さらに幅を広げたプログラムの検討が課題である。

③ 教育課程の整備と教育内容の向上

発想力育成や基礎学力の定着、そして社会人基礎力などキャリアにつながる力の育成を柱とした共通教育科目の新カリキュラムが決定し、2018 年度からスタートすることになった。従来の「女性総合講座」(半期) を「さがみ総合講座」として通年展開とし、発想力育成や地域を知る活動など本学の特色をより明確に理解できる内容とするほか、「社会人基礎力向上科目群」の設定、語学科目の充実を特色としており、一方で従来のいわゆる教養科目について一部整理・統合等の見直しを行った。

また国際交流については、台湾文藻外語大学より 1 名の留学生を受け入れた。2016 年度は半期だったが、2017 年度は通年の受け入れとなった。文藻外語大学への春季語学研修の参加者も増加しており、今後一層の交流拡大を図りたい。また正規の留学生ではないが、2016 年度に引き続き提携校であるカリフォルニア州立大学チコ校から派遣された学生 1 名が約 2 か月（6 月から 7 月）滞在し、英語文化コミュニケーション学科の授業補助を行うとともに本学学生とさまざまな交流を行った。こうした交流、外国学生の受け入れをさらに増やす方策を検討している。

④ 学習環境の整備

開設 2 年目の教職センターは、2017 年度も教職および保育士課程の学生たちへの積極的な支援を行い、就職実績等の成果もあがっている。また、人間社会学部で導入した社会福祉士課程についても指導室において課程を希望する学生への対応を充実させている。

⑤ 学生支援の充実

本学の特色である社会連携、地域連携の活動を、大学教育のなかにしっかりと位置づけるために、「キャリア形成支援ポリシー」を制定した。大学生活のなかで経験するすべてのことが学生の未来を形作るものであることを示し、本学は正課の授業のみならずそうした多様な学びを支援することを明確にしている。なお、このポリシーを具現化するために、連携教育推進課とキャリア支援課を連動させる事務機構改革を検討し、「夢をかなえるセンター」が年度末に設立された。具体的な成果は 2018 年度以降となるが、マニュアルや担当部署にとらわれない学生支援の実現に一歩踏み出したものである。

その他の学生支援の充実や学生対応の向上については、学生の声（各種アンケート）の分析などをもとに、継続して努力している。また、2016 年度にひきつづき定時制・通信

制高校等からの入学者を対象に入学前の交流会を実施し、好評だった。

⑥ 入学者増に向けた募集の戦略と戦術を策定

オープンキャンパスの充実には継続して取り組み、参加者も増加している。入試科目の改革なども行い、最終的な入学者は前年度並みだったが、英語文化コミュニケーション学科をはじめとする文系学科は志願者・入学者を増やすことができた。一方で、栄養系学科および子ども教育学科において、志願者数の減少が顕著になっており、定員はほぼ確保しているものの対策が必要となっている。

2. 各組織の評価

各学部・短期大学部・研究科および事務部の点検・評価については各部の長によるまとめ(別紙)に示されており、自己点検評価委員会で内容について確認がなされた。委員会での議論を含め、特徴的な点については以下の通りである。

相模女子大学

学芸学部

英語文化コミュニケーション学科が学生募集において大幅な改善を示したが、その要因としては、きめ細かな学生への指導、特にキャリア・就職支援に関して担任教員の関与を強めていったことが報告されており、他学科においても学ぶべきところが多い。全体として各学科とも一年次の「基礎教育講座」等に工夫をこらし、学科の学びへの動機付けや基礎的な力の育成に努力していることがうかがわれる。社会連携・地域連携においても学科の特性がよく生かされた多彩な活動が行われているが、教員負担の偏りの解消は引き続き課題としてある。学生募集については各学科で方策を考え実施しており、全体的に志願者・入学者を増やしている傾向にある。ただし従来順調だった子ども教育学科の志願者数にかけりが見られており、入試方法等の検討が必要である。

人間社会学部

社会マネジメント学科・人間心理学科共同での社会福祉士課程は着実に進行しているが、結果的に希望者全員が人間心理学科の学生となり、社会マネジメント学科における課程の位置付け、また社会福祉についての学びのあり方が課題となっている。人間心理学科では公認心理師資格に対応するカリキュラム改定が行われ、初年次教育の改革を進めている。社会マネジメント学科では学科の特色を整理し、地域連携活動の位置付けを明確にしたことで、就職率の向上が見られ、学生募集もやや持ち直している。

栄養科学部

健康栄養学科・管理栄養学科とともに、資格取得、国家試験合格等を具体的な目標として、一定の成果をあげており、そのなかでも、カリキュラムやその運用についてさらに改善の方

策を検討している。ただ、これまで順調だった学生募集において志願者数が減少してきており、入試の方法について早急な対応が求められる。

大学院栄養科学研究科

博士前期課程に3名が入学したが、後期課程には入学者がいなかった。長期履修制度を導入したことが社会人の受け入れにつながっており、今後とも学びやすい環境の整備とそのアピールが課題である。学位取得については研究科としての体制が整ってきており、順調に行われている。

相模女子大学短期大学部

食物栄養学科

二年連続して就職率は100%であり、資格取得率も向上している。学生募集状況も比較的安定している。休学者の減少に取り組んでいるが、これはまだ成果をあげていない。限られた時間の中で、社会連携の活動にも積極的に取り組んでいる。

以上